



Title	”apenas si”について
Author(s)	出口, 厚実
Citation	Estudios Hispánicos. 2004, 28, p. 1-16
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/93864
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

“apenas si” について

出 口 厚 実

0. はじめに

本稿は現代スペイン語における副詞的熟語 *apenas si* についての全般的な考察である。すでに一連の拙論（1998, 1999, 2000, 2001a,b）で副詞 *apenas* を扱った際の方法や分析の視点がこの表現に対しても適用可能であるが、同一の基準で見た差違の詳細を逐一論ずるというよりは、自明と思われる重複はなるべく排して、“*apenas si*” の固有の特性を探り出すように努めたい。なお、以下の論考では通常の「副詞 *apenas* + 接続詞 *si*」の連鎖、cf.(1)(2)は対象としない。この場合は「…かどうか、ほとんど…でない」「…かどうかだけ（を、が）…である」etc.を意味する。

- (1) ... 《ahora》, cuando empieza la nieve cuando nace la nieve, cuando crece la nieve en una vida que quizás está siendo la mía, en una vida que no tiene memoria perdurable, que no tiene mañana, que no conoce apenas si era clavel, si es rosa, si fue azucena... [AC:20/12/91-24/01/92]
- (2) ‘No me interesa si alguien es de derecha o de izquierda, blanco o negro, bajo o alto, católico o judío. Quiero saber apenas si está dispuesto a ayudar a este país’, expresó. [UN:11/01/03]

出典元となる資料には、先の *apenas* の調査時（出口1998）に採取した文例も含まれる（全体の約8%を占める）が、その後に追加された時期的により最近の用例が主体となる。語数、作家、作品、ジャンル etc.の枠をはめ、バランスを考慮したテキストの集合体ではなく、散在する様々な非同時的資源からこの副詞熟語句を検索して、その発見例を抜き出し集積したものである。一般的な現代スペイン語と見なし得るものは地域を限定せず広く取り上げることにした。データの総数など詳しくは§2.を参照されたい。

1. 辞書の記述

一般に、スペイン語辞典類でのこの熟語の扱いは簡素で、単に *apenas*

との同義性が指摘されるか、あるいはまったく無視されて、*apenas* または *si* の副見出し項目に取り上げられないこともある (RAE:1984)。

RAE (2001:121) は *apenas si* の語義を *apenas* (=casi no) とし、接続詞的用法と紛らわしい場合に、曖昧性を回避するために用いると説明する。掲げられた例文 (3a, b) からすると、‘時間の接続詞’「…するや否や」の意味では *apenas si* を使用すべきでないという規範を示唆しているようである^{注1}。

(3)a. *Apenas si* sale de casa; me llama por teléfono (está enfermo). 「ほとんど外出しない (病気である)」

b. *Apenas* sale de casa, me llama por teléfono (se preocupa por mí)
「家を出るや否や (私を気遣っている)」

いくつかの用例を添えて、もう少し詳しい解説を与えているのが Salamanca (1996:110) である。見出し語 *apenas* の第1語義として、この語が肯定構造で「ほとんど…ない」の意味をもって修飾する動詞句に義務的に先行すると規定する。そして後続の注釈で、この用法と位置では、‘ほぼ同じ意味で’ *si* を従えることができると記され、次の各例文が示される：

(4)a. *Apenas si* nos dejan dormir (‘*apenas* nos dejan dormir’).

b. *Apenas si* lo hubiera notado (‘*apenas* lo hubiera notado’).

c. *Apenas si* le dolerá. Porque *apenas si* nos dejan respirar (‘porque *apenas* nos dejan respirar’).

d. Cuando *apenas si* había cumplido esa edad.

否定表現で動詞に後行して「ほとんど」を意味する第2義と、「わずかに」の意の第3義や直後性の表現では、*apenas si* との同等性が触れられないことからして、この辞書も RAE と同じく、‘近似否定’ (出口:2000) の用法についてのみ両者に互換性があると見なしている。つまり、*apenas si* は単純にすべての *apenas* と代わり得るものでなく、動詞句に先行し「ほとんど…ない」の用法に限られるとしている。

Seco (1998:51) によれば、*apenas si* は前述の否定副詞・数量副詞としての2用法で特に文語において多く用いられるとコメントする。そして、

注1 RAE 辞典の携帯版 "Diccionario Manual" (1983, Tomo 1:p.152) は、時間副詞としての用法 (= luego que, al punto que) が *galicismo* であると警告していた。

それを裏付ける著名な作家の使用例が紹介されている。

2. “apenas si” の意味

第2節では前節の辞書記述を検証するため、資料中に実際に見出されたこの熟語の用例文を意味タイプ別に分類整理する。特に、“apenas si” が、副詞 *apenas* の代表的語義であり、時には語意の核心と見なされる“近似否定的”な機能だけをもつのかどうか、あるいはその機能に極端に偏って用いられているかどうかという点を確認するのがねらいである。

2.1. 近似否定 (= *casi no*)

大抵の辞書が訳語・置き換え表現として *apenas si* に充てるのは *casi no* の意味で、「ほとんど…ない」に相当する。確かに否定に近いニュアンスを暗示するケースも多いが、動詞句の肯定・否定への帰属は見かけ以上に複雑な様相を呈し、これまで *apenas* に関して指摘してきたような、双方への親和に揺れる中間的性質（拙稿1998:34-35, 1999:37-39）は *apenas si* に対してもほぼ当てはまると思われる。

- (5) Maruja se dejó llevar por la inercia de los desahuciados. Permanecía día y noche haciéndose la dormida en el colchón, de cara a la pared para no tener que hablar. *Apenas si* comía. 「ほとんど食べなかった」 [NT]
- (6) En la calle, casi 40 grados. En el interior de la Audiencia Provincial, el frescor de los lugares en donde *apenas si* entra el sol. 「ほとんど陽が入らない」 [PA:28/08/01]
- (7) Veían al viejo cada día perder su vitalidad. *Apenas si* ahora sentía curiosidad por nada. 「ほとんど興味を感じなかった」 [RA:102]
- (8) Luego de una reducción del 3,2% de su economía, el año pasado, en 2000 *apenas si* crecerá. [NA:07/10/00]
- (9) Como se recordará, Aleix Vidal-Quadras propuso dialogar con Pujol veinticuatro horas después de que el presidente de la Generalitat almorzara con José María Aznar en Madrid, en una reunión en la que el diálogo entre los dos dirigentes *apenas si* aportó novedades. [VG:18/02/95]

出口（2000:5-12）で *apenas* について詳説したのと同様に、量化の対象となる辞項は多種多様である。例えば、文(7)(9)において、*apenas si* はそれぞれの直接目的語、*curiosidad*, *novedades* の僅少性を表現し、(5)は明

示目的語を欠くが、動詞 *comer* の直接目的語となるべき被摂取物辞項の微量が焦点となる。(8)文の「ほとんど…ない」の対象は、経済活動 *economía* で、これは「成長するだろう」の主語として選択される意味項である。同様に(6)でも、主語の *sol*「日光」が *apenas si* によって微量化されている。

また、動詞後に後続する否定語 (*nada, nadie, etc*)、否定対極表現 (*un dedo, palabra, 後置 alguno, etc.*) との共起も珍しくない：

- (10) A los gatos *apenas si* los llora nadie. 「ほとんど誰も泣かない」
[AC:14/01/94/-18/02/94]
- (11) De ese desigual amor entre 《la escritora》 y el joven, *apenas si* conocemos nada. 「ほとんど何も知らない」 [AC:07/05/93-11/06/93]
- (12) Mas estos trenes discurrían cachazudamente y su paso, en la oscuridad del agujero, *apenas si* les producía ya emoción alguna. [CM:145]
- (13) Un señor gordo, simpático y completamente americano llamado Michael Moore, subió con toda su 《banda de música》 a cantarle un corrido a Bush, y tenía un chorro de voz (quien llegó con un chisguete fue la actriz Susan Sarandon, que, de tanto chillar fuera, luego en el escenario *apenas si* dijo palabra)... [AB:25/03/03]
- (14) Y tampoco puede decirse que esté rentabilizando su brillantísima labor en la oposición: *apenas si* ha movido un dedo. [MN:28/10/96]

2. 2. 下限評価 (=escasamente, solo)

RAE を始めとして多くの辞書で *apenas* の第 2 番目の語義として与えられるのは肯定文脈で微少量を評価する「ごくわずかに、せいぜい、ただ」の意味である。RAE (2001) はこのケースを数量副詞 *adverbio de cantidad* と呼んでいる。拙稿 (2000, 2001a) ではこのような用いられ方を下限評価機能と名付けた。*apenas si* がこの下限評価として用いられるのは現代語においてごく普通で、その実例を容易に確認することができる [(15)-(18)]。

下例文 (15) では単独の *apenas* と並んで、*apenas si* がほぼ同じ構文で同等に使用されていることがわかる。

- (15) Copei ha tenido una reanimación mucho más modesta y *apenas si* alcanza 3,5% en la medición de junio pasado, tras haber tenido *apenas*

2% hace tres años. [UN:14/07/02]

(16) En su corto espacio de vida, Alvin *apenas si* conocía a una milésima parte de los habitantes de Diaspar. [LC]

(17) Pedrito Hallao fue un niño de niñez brevísima. *Apenas si* duró un día. Nadie lo bautizó. [NA:13/08/01]

(18) Ser príncipe hoy exige especiales dotes de discreción; más en España, donde la restauración *apenas si* ha cumplido dos décadas. [MN:18/08/96]
 前項 2.1. の意味 (i.e. 近似否定) での使用比率との比較では *apenas* とは明らかな差は見られるが【Cf.3節(30)】、変則・異例な散発現象として切り捨てるべき量ではないだろう。この語義が *apenas si* に公式に登録されなかったり、あやふやな記述で済まされる傾向が見られるのは、辞典編纂者が現在の利用実態を把握していながらも、以前から引きずっている、ある種の規範的観点を拭うことができないからなのだろうか。

(19) Hay muchas, muchísimas cosas que mantienen a la gente en su terruño, y eso *apenas si* va cambiando muy lentamente" 「ただ非常にゆっくりと変化しているだけだが」 [NA:31/05/01]

評価の対象となる少数・少量表現を欠く自動詞・他動詞構文であっても、実質否定や極少量の達成を意図するのでなく、下限評価の用法と見なければならぬケースもある。

(20) Vagamente me viene el otro piano. Es tan poco lo que puedo recordar de él ahora. *Apenas si* recuerdo los ojos que entonces lo miraban. 「そのとき彼がピアノを見つめていた目を思い出せるだけだ」 [SG]

(21) Los viejos dormimos poco, casi nunca. A veces *apenas si* dormitamos; pero sin dejar de pensar. Eso es lo único que me queda por hacer. 「ときおりまどろむだけだった」 [PR]

上の文では先述される一般的な睡眠行為 *dormimos* に較べて、せいぜいウトウトする程度であることを表していて、動詞の *dormitar* を否定に近く微量化するものではないだろう。

この第2語義は、前稿 (1998:32-33) において A 型/B 型に細区分されたが、*apenas si* では名詞句を評価する後者のタイプ、Cf.(22) がかなり頻繁に見られる。

(22) Como ven, no tenemos nada para darles. Hemos comido todo lo que trajimos y *apenas si* quedó un ala de pollo y un sandwich de queso para

Alvaro. 「わずかに鶏の手羽とチーズ・サンドウィッチが残っただけだ」
[UD]

2. 3. 直後時間 (=luego que)

動詞の語彙意味の種類によっては、*apenas si* に後置される動詞の行為が実現したすぐ後の状況、すなわち時間的な直後を指示し得るのは *apenas* と同様である。この表現が *cuando* で導かれる従属節中にある次の例では、「彼らが別れるや否や」【cf.(23)】、「太陽が顔を出すや否や」【cf.(24)】と訳される直後性の解釈と、“臨界到達”の基本義（つまり第1語義）が表裏の関係で両立している。

(23) Los periódicos de Cali no decían nada, pero Luisita Lozano, que llegó cuando ellas *apenas si* acababan de despedirse, les contó que no sólo eran los dos muertos de la casa de don Pacho Montalvo sino cinco, porque en todo el frente de la casa de don Alfredo Garrido, en la orilla del río, habían encontrado otro y Ercilia Rendón,... [CD:64]

(24) Desde que lo vio a través de la vidriera aquella mañana cuando *apenas si* asomaba el sol, supo que ya nada sería igual. [CA]

また他方で、“*apenas si* ~ , *cuando* ~”, “*cuando* ~ , *apenas si* ~” の構文も見出される [Cf. 出口2001 b:46]。この場合、*apenas si* が主節内部で動詞語彙意味の成就のすぐ後の時点参照を生成し、それを関係副詞 *cuando* がその節内の時間と関連づけているか、もしくは副詞節 *cuando* で指定される時間が主節動詞の事態（直後の状況）と時間的に一致することを明示すると解すことが出来る。従って、文(25)の *apenas si* cerrábamos は「目を閉じた」すぐ後の時点を表わす。

(25) *Apenas si* cerrábamos los ojos al oscurecer, cuando nos volvía a despertar el sol el mismo sol que parecía acabarse de poner hacía un rato. [LL]

(26) Cuando la cabecera llegaba a su lugar de destino, la cola *apenas si* había iniciado el recorrido. [HY:21/10/00]

ただし、*cuando* のような時間的解釈を誘導する語句を伴わずに、純接続詞的に「…するや否や」で用いられる *apenas si* の実例は、皆無とは言えないが確かに少ない。

(27) Samuel y Patricio me daban lástima y me hacían dudar, pero por

meses enteros continué visitando la casa de las Quiñones a pesar de sus advertencias. *Apenas si* cruzaba la verja del jardín me sentía a salvo y, una vez dentro, me olvidaba de mis recelos y reparos. [UV]

- (28) Corrí al baño, por urgencias físicas y para leer a gusto los resultados; el estómago me reaccionó con violencia, *apenas si* llegué busqué un gabinete desocupado; [CP]

3. apenas との頻度比較

今回の考察の基礎となったのは、この目的のために収集した *apenas si* を含む例文の集合である。およそ1,500弱の用例から成るが、サイズ・分野・スタイルを統制した一定数の汎用テキスト・コーパスから抽出したものではない。従って資料体（原テキスト母体の全体）の中に、*apenas* 単体がどれだけ、どのように用いられているかを数え上げ、熟語句 *apenas si* と絶対頻度等の数量的な比較をすることは不可能であった。

そこで、目安として、RAE のデータベース CREA から得られる単行 *apenas* 対 “*apenas si*” の頻度分布の比率を次にあげる。さらに小規模なものだが、前回調査（1998）^{注2}で集計した同様の数値を参考にすることもできる。両者から “*apenas si*” は *apenas* の20～25分の1の使用頻度を示すと推定できる。

(29)	本稿	CREA	出口(1998)
<i>apenas</i> 単独 (<i>apenas si</i> を除く)	?	16,688例	3,161例
<i>apenas si</i>	1,479例	759例	123例

副詞 *apenas* の2大機能である“近似否定”vs “下限評価”に関しては、出口（1998）でその頻度を集計した。しかし、*apenas si* 例文集については語義別の分布状況明細も未集計である。そのため、比較的小規模な2種のコーパスに見出される全例文数を語義区分別に数えたものを、それと比較できるよう下表(30)に示す。両者は最近に公開された、それぞれ1億語、

注2 本稿の1,479例はこの123例をすべて含んでいる。若干数の非熟語的 '*apenas+si*' も総数に入っている【cf. 0.はじめに】。CREA, Corpus del español, SOL など他のデータベースの検索結果から得られる二次的データを組み入れなかったが、採取源泉が共通する可能性は否定できないので、同一の素データがピックアップされて重なり合う部分はあり得る。

数百万語のテキストデータに基づいている。

(30)	近似否定	下限評価	直後時間
apenas 単独 (出口1998)	1,294	1,240	291
apenas si (“Corpus del español” ^{注3} より)	112	41	3
apenas si (“SOL” ^{注4} より)	34	10	0

apenas 単体と “apenas si” の間で、その意味機能別の頻度を比べてみると、前者のケースでは、これら 2 つの基本義の頻度分布はほぼ互角で 1:1 と見なされるのに対して、熟語 apenas si においては、近似否定としての使用がはるかに優勢で、2.7:1 あるいは 3.4:1 と大差が開く。一方、apenas si が直後性の表現に使われる事例はすべて抽出しても数例にしか達せず、とりわけ、純粋な接続詞的用法^{注5}は、前出(27)(28)を含め3例が確認できただけである。この点で、apenas との間に顕著な落差があるとみなして間違いはないだろう。

4. “apenas... si ...” 構文との関連性

Bello y Cuervo (1958:369) は apenas si がフランス語から導入された新しい表現だが、v. gr.(31)、(この句の意味が) それを構成する各要素の意味と整合し、si se oía, era apenas からの略訛が自然で表現力に富むと指摘している。

(31) Apenas si se oía el confuso rumor de los pasos.

si が譲歩的假定節を導き、肯定文の「～するとしても」を表し、その主節に含まれる apenas 「それはごくわずかだ」と相関する複文も、実際、幾例か観察することができる。もちろん、この構文が徐々に摩耗して行き、縮約したのが apenas si であるべき必要はないものの、意味の平行性は認められる。下の諸例に見られるように si 単独でなく、si es que, si acaso のような後続表現との共起が多いが、apenas と si の短絡合体プロセスを支える概念的土台に役立つ可能性はある。

(32) Y luego está el director, o los solistas, que se llevan el mayor

注3 Mark Davies (Brigham Young University): “Corpus del español” – <http://www.corpusdelespanol.org/> の20世紀該当のデータ。

注4 “ONE71, PE77& COR92” - Spanish OnLine. – <http://spraakdata.gu.se/lb/konk/rom2/>

注5 cuando, y などの付随語を伴わず、かつ主節に従属する節を導く冒頭に立つ構造。

pellizco, y todo ello con independencia del público, que apenas ha pagado, si es que paga, una ínfima parte del costo. 「支払うとしても、ごくわずかの一部を支払ったに過ぎない」 [AC:30/07/93-10/09/93]

- (33) También los alcaldes del entorno se entrevistaron con Tocino y, al igual que el consejero, lamentaron la 《falta de cortesía》 de la ministra, al decir que en los catorce años de gestión del Gobierno socialista apenas hubo este tipo de encuentros, si es que hubo alguno. 「皆無でなかったとして、ほとんどなかった」 [MN:24/11/96]

主節と従属節で同一の動詞が繰り返されず、類似表現に言い換えて現れる (estar alfabetizado → saber leer, correr → dar pasos rápidos)、次のような構文も見られる。

- (34) Algunos monarcas poderosos, entre los que se destacaba Oto el Grande (912-973), rey de Alemania y emperador de lo que todavía era llamado Imperio Romano, estaban apenas alfabetizados, si es que sabían leer. [NA:31/12/99]

- (35) Compañeros que ya había sido testigos de la escena, me dijeron que jamás olvidarían la frialdad con que escapaban, que incluso miraban a la gente con la que se cruzaban y fingían dispararles, y que apenas corrían, si acaso, daban pasos rápidos. [AV]

逆に、否定文を先に掲げてから、後に apenas si で疑似否定に緩和するタイプの文もある。下例には「見えない、あるいは見えるとしても、わずかに垣間見えるだけだ」を意味する文が含まれる。

- (36) De las casi tres horas que dura este penoso filme engendro, el cronista soportó malamente dos horas de su celuloide plano, insignificante, oscuro y, lo que es peor, fotográficamente opaco, pues los contenidos que filma Gröning son de tal imprecisión que no se ven, o, de verse, apenas si se entrevén. [PA:27/10/00]

5. 統語的特性

意味上、“apenas si” は apenas のほとんどの領域をカバーすることができるが、統語的な振る舞いにおいてはかなり様相を異にする。語順と否定辞との関係に注目した統語パターンとして、apenas で見られた次の4種【cf. 出口(1998:36)】のうち apenas si は i), iv) のみを認める。

(37) i)	apenas V	apenas si V
ii)	V apenas	—
iii)	neg V apenas	—
iv)	apenas V neg	apenas si V neg

本稿の冒頭の2例文(1)(2)は、一見、iii), ii)の *apenas si* 構文のように見えるが、実際に含まれるのは *apenas* の iii), ii) 型式である。iv)の形式は、*apenas* (si) が否定誘発子としての働きを示し得るという性質を持つ結果から生じるものなので、結局、この熟語副詞は動詞前位でしか用いられないという特徴に還元できる。さらに正確に言えば、動詞句の冒頭位置を占め、動詞の直前(動詞が付接辞を先行させる場合はその前)に置かれるのが原則である。先行する *apenas si* と動詞の間に位置できるのは *ahora* のような小副詞である。他の主要な文構成要素が介在するのはごく稀であるが、非文法的になるわけではない。下文(38)(39)は、それぞれ、主語、間接目的語が介入する珍しい例である。

(38) *Apenas si* el pobre hombre tuvo tiempo para pensar: [NB:179]

(39) Después de aguantar la larguísima cola que la torrencial lluvia dejó como secuela en la ciudad, *apenas si* a la gente de Catia le dio tiempo de llegar a su casa para apresuradamente unirse a la algarabía de la manifestación que había sido convocada para apoyar el SI. [UN:09/12/99]

複合形式でありながら、統語的位置が *apenas* よりも制限されて、否定辞 *no* に近い特性を見せるのは、主節の崩れた残骸と従節の節標識が形作る奇妙な2節構造(もはや複文とは呼べまいが)に原因するのではないだろうか。*apenas si* が動詞後位に立てない事実は *apenas + si* という内部構成に含まれる *si* の接続詞的資格に由来するであろう。もし *apenas si* に動詞句が先行すれば、*si* の後方に文としての地位を保障する動詞が不在であることになり、従って「節」の外形を認可できないことを意味する。別の見方をすれば、動詞句前位置にあることは、文構造全体を傘下に収める副詞としても適格で、また *si* が節を導入する位置としても矛盾しないと解される。

他方で、“*apenas si*” が、構造上で副詞 *apenas* + 接続詞 *si* の連鎖を維持していると分析することも不適當である。冒頭の(4c)や下例(40)に観察されるように、*si* 条件節では通常不可能である直説法未来形動詞が後続しているし、さらに、以下の用例に見られるように、接続法現在(41)・直説

法過去未来(42)・過去未来完了時制(43)と *apenas si* との共起が確認できる。つまり、これらの事実が接続詞 *si* が固有の統語的独立性を失って、*apenas* と一体化した固定表現を形成していることの証拠となる。

(40) P.-¿Tiene microondas?

R.-Sí, pero *apenas si* lo sabré usar a un diez por ciento de su capacidad.
[MN:27/08/96]

(41) Es el símbolo de la inocencia perdida, y de esa realidad sólida y elemental dentro de la cual hemos habitado en algún momento, aunque ahora *apenas si* podamos recordarlo. [PA:02/01/01]

(42) Los objetivos declarados de cada parte son tomar posesión de las pocas millas de tierra en disputa que *apenas si* alcanzarían para dar sepultura en ellas a los que están muriendo para conquistarlas.
[UN:31/10/99]

(43) Podrían haberse triplicado y la presión del público sobre la organización *apenas si* se habría aliviado. [VA:11/07/02]

否定語, p. ej. no, nadie, nada, etc. が動詞に先行する統語構造での *apenas si* の出現は不可能であると指摘したが、*apenas si* が否定のスコープに共演または包含されないで、no と共起することはあり得る。

(44) Con tan sólo 33 años, Michael Schumacher se ha apropiado de la mayor parte de los récords de la F-1, y los que todavía no posee están a su alcance. *Apenas si* tres o cuatro no le pertenecen: vencedor más joven de un gran premio, o el que más pronto ganó una carrera, o el que más pruebas del Mundial ha disputado. [VA:15/08/02] 「わずか三、四の記録のみを手中に入れていない」

否定辞 no は tres o cuatro の支配下にあり、一方、*apenas si* は no と組まずに、極少量である 3, 4 を評価するために置かれているので、動詞句から離れるべき理由があった。当然、‘*apenas si le pertenecen tres o cuatro*’ とは意味を異にする。

6. *apenas si* と叙法

単体 *apenas* とほぼ同じ意味を有するとすれば、*apenas si* に先行される動詞を主節にもつ従属節の叙法はどうなるかが興味をそそる。総サンプル数で約10倍のデータ量が今回の調査対象となったが、叙法に関連しては、

出口 (1999:1-3) で *apenas* に対して得られたものとほとんど変わらない程度の絶対数の実例を発見しただけで、これらデータから明確な結論を引き出すのは難しいと思われる。

(45) Rangel no quería hablar mucho de su amigo, *apenas si* dijo que habían hecho varios “trabajos” juntos en los dos últimos años y que lo habían matado dos días antes, en las afueras de Bogotá, durante un asalto a una distribuidora de repuestos para maquinaria agrícola. [CU]

(46) De su vida, *apenas si* se sabe que tiene una hija con el actor Charlie Creed-Miles. [NA:15/06/03]

上の2文で、*que* 名詞節はそれぞれ、*apenas si* を伴う動詞 *decir*, *saber* に従属する。文脈から判断して「言った」、「知られている」内容がほとんど否定されているのではなく、発言内容、周知内容がわずかにそれだけであると主張されている。すなわち *apenas si* は下限評価の語義で使用されているのであるから、補文節にいずれも直説法形が出現するのは自然と言える。

この種の従属構文よりは多数の用例を確認出来たのは、上位文に *apenas si* が含まれる関係節である。先行詞が否定語である (37) iv) の形式を示す (47) では、*apenas si* よりも *nada* の影響を大きく受けるのか、接続法形動詞を含んでいる。

(47) A poco que estemos atentos comprobaremos que, en vacaciones, *apenas si* hacemos nada que no nos haya metido en la cabeza la publicidad, esa seductora lenguaraz que ha puesto en venta el Paraíso desde un estante de un centro comercial. [VZ:23/07/03]

この文と同様に近似否定機能で、「ほとんど…する人はない」を意味する次文 (48), (49) には接続法、直説法の両法の使用が認められる。

(48) Asimismo, esta crítica considera sorprendente que en el universo “tallado pieza a pieza” por Almodóvar, *apenas si* aparece alguien “que sea normal, corriente, de la calle por la que todos pasamos”. [PA:13/01/00]

(49) Antiguamente todos morían de puro viejos y achacosos, y ahora *apenas si* hay quien llega a los sesenta años, porque todos acaban envenenados por las drogas y potingues de las farmacias. [EN:307]

他方、例文 (50) の先行詞 *un libro* は下限評価を受ける *apenas si* を伴う主

節中にある。

- (50) *Apenas si* tengo un libro que reproduce lo que he pintado. Puede hojearlo, si quiere". [NC:28/03/98]

以下の数例でも、*apenas si* は関係詞の先行詞に対して疑似否定的に作用しており、関係節内にはいずれも接続法形動詞が現れている。

- (51) Ya tengo un nieto y lo digo sin rubor y hasta con entusiasmo, porque es sabido que esos vástagos que *apenas si* tienen algo con nosotros que no sean vagas señas de identidad físicas y un aire de familia y una distancia, son sobre todo la ocasión para portarnos en padres liberales e irresponsables. [VA:22/06/02]
- (52) En cambio, en las áreas urbanizadas de Pekín, Shanghai o Cantón, *apenas si* quedan árboles que eviten la erosión de los suelos agotados. [NA:10/10/00]
- (53) La mayoría de sus poblados del norte del país alguna vez estuvieron en zona de guerra y *apenas si* tienen una red cloacal que funcione. [NA:13/10/00]
- (54) La influencia es obvia: por afirmación o por negación *apenas si* hay compositor que no haya recibido algún tipo de influjo de su personalidad. [AC:17/07/92-21/08/92]
- (55) En cambio, en Showgirls-y ahí está el morbo, la tensión soterrada-*apenas si* se recuerdan escenas en las que aparezca vestida. [MN:10/02/96]

発見された該当データから全般的に推測できることは、*apenas si* が一律に従属節に対して特定の叙法を要求するのではなく、その語意（近似否定・下限評価）に依存するのではないかという点である^{注6}。

7. まとめ

現代スペイン語テキストで普通に用いられている実例文における *apenas si* 構文を考察することを通じて、この熟語表現に対して次の点を確認した：

注6 直後性を示す接続詞的用法については、前掲の例文(27)(28)は直説法形を含む。ただし、*apenas*, *luego que*, *si bien*, *cuando* などの‘時の接続詞’と類似の法選択パターンを見せるはずで、接続法も許容するだろう。

★ apenas と同様に、1. 近似否定、2. 下限評価、3. 直後性、の意味機能を担い得る。ただし、この順序で使用の度合いは減少する。特に、3.のうち、純接続詞的用法はほとんど利用されていない。

★ apenas よりも統語的に制約を受けやすく、その出現位置は動詞直前にほぼ限られる。

★ 2. の下限評価機能を見捨てたり容認しない多くの現行辞書の扱いは実態に即していない。

☆例文の出所略号の後の[:数字]は参照ページ数を、[:dd/mm/yy]は定期刊行物などの発行年月日を表す

出典

CD: Gustavo Álvarez Gardeazábal “Cóndores no entierran todos los días”. Ediciones Destino. Barcelona, 1992.

CM: Miguel Delibes “El camino”. Ediciones Destino. Barcelona, Decimoquinta ed. 1991.

NB: Miguel de Unamuno “Niebla”. Alianza Editorial, S.A. Madrid, 1993.

電子化データ

AB: abc.es.- ABC Periódico Electrónico S.L.U, Madrid.—<http://www.abc.es/>

AC: ABC Cultural 1991-1995. Un lustro de la Cultura Española en CD-ROM, Telefónica.

AV: Angel Stuyck Martínez-Pardo “El asesino vulnerable” - Concurso Literario para Estudiantes Universitarios.—<http://www1.elpais.es/literario/cosultaC/>

CA: Jackeline de Barros “Carmen”. - Relato Corto.—http://standarte.com/relato_corto/index.html

CP: Carlos Alberto Mendoza Ugalde “La Culpa”, 1999, México- ‘Proyecto Sherazade’ —<http://home.cc.umanitoba.ca/~fernand4/culpa.html>

CU: Jose Navia “Confesiones de un delincuente”. -Libro Virtual.—<http://eltiempo.terra.com.co/proyectos/libros/>

EN: Amando de Miguel “La España de nuestros abuelos. Historia íntima de una época”. 1995

HY: Hoy Digital. Ediciones Digitales HOY, Badajoz.—<http://www.hoy.es/edi->

cion/portada.html

LC: Arthur C. Clarke (tr. de Francisco de Cazorla) "La ciudad y las estrellas"
-Zine Ficción Núm. 5, diciembre 1998 — <http://www.arrakis.es/%7~agerea5mt/zine/z.htm>

LL: Juan Rulfo "El llano en llamas". - Juan Rulfo Obra Completa.—http://serpiente.dgsca.unam.mx/serv_hem/libros/rulfo/

MN: El Mundo en CD-ROM. Primer Semestre & Segundo Semestre 1996, Mudired.

NA: La Nación Line. S.A. La Nación, Bs.As.—<http://www.lanacion.com.ar/>

NC: La Nación Line. Suplemento Cultura.—<http://www.lanacion.com.ar/>

NT: Gabriel García Márquez "Noticia de un secuestro". Americanativa, 1996.—
<http://americanativa.8k.com/PA/>

PA: El País Digital. Diario El País S.A. Madrid.—<http://www.elpais.es/>

PR: Juan Rulfo "Pedro Páramo". Juan Rulfo Obra Completa.—http://serpiente.dgsca.unam.mx/serv_hem/libros/rulfo/

RA: Reinaldo Lomboy "Ranquil". Facultad de Ciencias Sociales - Universidad de Chile.—<http://www.bibliotecas.uchile.cl/revistas/autores/>

SG: Raquel Saguier "La niña que perdí en el circo" - Edición digital basada en la de Asunción (Paraguay), RP Ediciones, 1987. - Literatura Paraguaya.—<http://www.cervantesvirtual.com/servlet/SirveObras/lp/70362736495781652001157/index.htm>

UD: Angélica Gorodischer "Un domingo de verano".-Literatura Argentina Contemporánea.—<http://lenti.med.umn.edu/~ernesto/Literatura.html>

UN: El Universal Digital, Caracas. —<http://universal.eud.com/>

UV: Cristina Rivera-Garza "El último verano de Pacal" - El sitio de Ficticia.—
<http://www.ficticia.com/autores/criverasem.html>

VA: La Vanguardia Digital. La Vanguardia Digital, Barcelona.—<http://www.lavanguardia.es/>

VG: La Vanguardia en CD-ROM. La Vanguardia Electrónica, Barcelona.

VZ: La Voz de Galicia. LA VOZ DE GALICIA, S.A., A CORUÑA.—<http://www.lavozdeg Galicia.es/inicio/index.htm>

参考文献

- Bello, Andrés y Rufino J. Cuervo(1958):Gramática de la lengua castellana.
Editorial Sopena Argentina, Bs.As.
- Real Academia Española(1984):Diccionario de la lengua española. vigésima edición. Madrid.
- (2001):idem. vigésima segunda edición. Madrid.
- Santilla-Universidad de Salamanca(1996):Diccionario Salamanca de la lengua española”, Santillana,S.A., Madrid.
- Seco, Manuel(1998):Diccionario de dudas y dificultades de la lengua española. 10a ed. Madrid.
- 出口厚実(1998)「apenas:否定性に関わるいくつかの特徴(1)」—Estudios Hispánicos 23, pp.31-40
- (1999)「apenas:否定性に関わるいくつかの特徴(2)」—Estudios Hispánicos 24, pp.1-12
- (2000)「apenas と被数量化要素」—Estudios Hispánicos 25, pp.1-16
- (2001a)「apenas と数量詞」—大阪外国語大学論集 25, pp.27-47
- (2001b)「apenas による直後性の表現について」—Estudios Hispánicos 26, pp.35-56